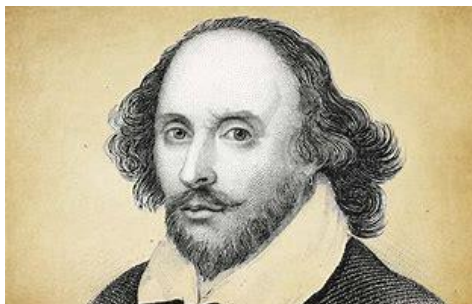


# 『Mind Charging』

第 26 回 発行：入試広報室 発行日：令和 2 年 5 月 11 日

## シェイクスピアの名言



**There is nothing either good or bad,  
but thinking makes it so.**

物事に良いも悪いもない。考え方によって良くも悪くもなる。

私たちは、生活していく中で様々な物事に対して考えます。それを『良いこと or 良くないこと』に判断するのは、自分の考え方によってどのように捉えたのかが基準となると言えます。良いか悪いかは、『正解か不正解か』と感じがちです。常識的に見て、もちろんそのような物事も多くありますが、それ以外の部分で重要なのは、その物事に対する『捉え方』なのだと思います。人それぞれ考え方は違います。『みんな違ってみんな良い』という言葉がありますが、物事に対して良いか悪いかと言うよりも、『自分にとって必要なこと』として捉えることが重要であり、『ほら、やっぱり必要だった』という結果に自分で自分を導いていくことが最重要であるという意味で、シェイクスピアはこの言葉を残したのだと思います。

全ての物事には、それが存在する理由があるとは思いますが、その全てに正解・不正解があるわけではないと私は思っています。そういった正解・不正解に分類することが困難な『答えのない問題』に対し、『損得』や『メリット・デメリット』ばかりを基準に考えるのではなく、『give and take』と捉えることによって『最適解』を導くことができるのではないのでしょうか。『正解＝○、不正解＝×、最適解＝△』のような中途半端な感じがしますが、時として『最適解＝◎』ということもあるのだと思います。

多様性の時代と言われますが、様々な物事に対し、十人十色の道筋を通してポジティブなものとして捉え、自らを成長させられるマインドこそが、それと言えるのではないのでしょうか。(編集委員：入試広報室 鈴木)

ウィリアム・シェイクスピア(英語: William Shakespeare, 1564 年 4 月 26 日(洗礼日) - 1616 年 4 月 23 日(グレゴリオ暦 5 月 3 日))は、イングランドの劇作家、詩人であり、イギリス・ルネサンス演劇を代表する人物でもある。卓越した人間観察眼からなる内面の心理描写により、もっとも優れた英文学の作家とも言われている。また彼の残した膨大な著作は、初期近代英語の実態を知るうえでの貴重な言語学的資料ともなっている。2002 年に BBC が行った「100 名の最も偉大な英国人」投票で第 5 位となった。(Wikipedia 参照)